

野中の櫻 苦草のさかゆるのべに咲いで、花もひとしほ色まさりけり
首夏の山 雨雲はあどなくはれてほがらかに青葉が末に山鳥のなく
薔薇の香り 賤の男が駒に水かふ里川の岸の野ばらに入日さすなり
うち見る まくを 山田にははや水ひきぬ今よりや蛙の聲もしげくなるらん
水郷柳 岸のべにつなげる舟をかくすまで生ひのびにけり里の青柳
行列 春雨のそぼふるゆうべぬれつゝも葬式へつりゆくなり山寺のへに
海邊に立ちて くだけてもわれてもよする磯なみのたけき心を心ともがな

この五日うつし心もなきわれは狐の塚をふ
みてこしかも…………… 晶子……………